

DMO 東京丸の内・DMO 大阪梅田連携ツアー

日本最先端の街づくりが進む東京と大阪の玄関口

丸の内と梅田の街づくりを学び、楽しむ2日間

DMO 東京丸の内では、過去、丸の内で開催された MICE のエクスカージョンツアーとして、日本のカントリーサイド、千葉県南房総を巡るツアーや同じく千葉県で発酵をテーマとした街づくりを進める佐原町を巡るツアーを企画、実施していますが、今回は初めてとなる1泊2日の行程で、丸の内と大阪梅田を巡るモニターリングツアーを DMO 大阪梅田との連携の下、実施しました。

モニターとして参加したのは東京在住の外国人ビジネスパーソン 13 名。ジャーナリストから HR 業界、ホテル業界、貿易関係など多彩な業界の皆様にお集まりいただきました。

11月2日（木）、午前9時30分、DMO 東京丸の内のマーケティングスイートに集合し、全体のオリエンテーションの後、スライドを使いながら丸の内の街づくりに関する講義が始まりました。



最初のテーマはビジネスセンター丸の内の成り立ち。

江戸時代、大名屋敷が立ち並んでいた丸の内は明治維新後、国から民間に払い下げられることとなり、一帯を購入した三菱社により欧米に伍する近代的ビジネス街の建設が進められます。「模範街」を目指したその街づくりの精神は、代々、三菱に引き継がれ、時代と共に社会の要請に応える街づくりがされてきたことが紹介されました。



二つ目のテーマは、特にこの20年の間に起こった街の大転換について。

かつて、銀行や証券会社の店舗や本社オフィスのロビーが並び、休日になると人が居なくなるエリアでしたが、歩道を拡幅して路面を石畳とし、街路樹も植え替え、魅力的な店舗やカフェ・レストランが並ぶようになったストリートを中心に、土日も多くの人でにぎわう街へと大転換を果たしました。



三つ目は、コロナの期間を経て、人々のライフスタイルやビジネススタイルが変わる中での街づくりの新たな取り組みとして、パブリックスペースの活用や新たなビジネス創発に向けたイノベーション施設の運営、また、ワーカーの多様な働き方を支援する豊かな共用フロアの設置など

ついて説明がありました。



(大手町ビル7階 共用ラウンジ)

約 50 分間にわたる講義の後、街づくりにおけるサステナビリティへの取り組みに関する質問など、質疑が活発に行われました。

会議室での講義の後は実際の街歩き。

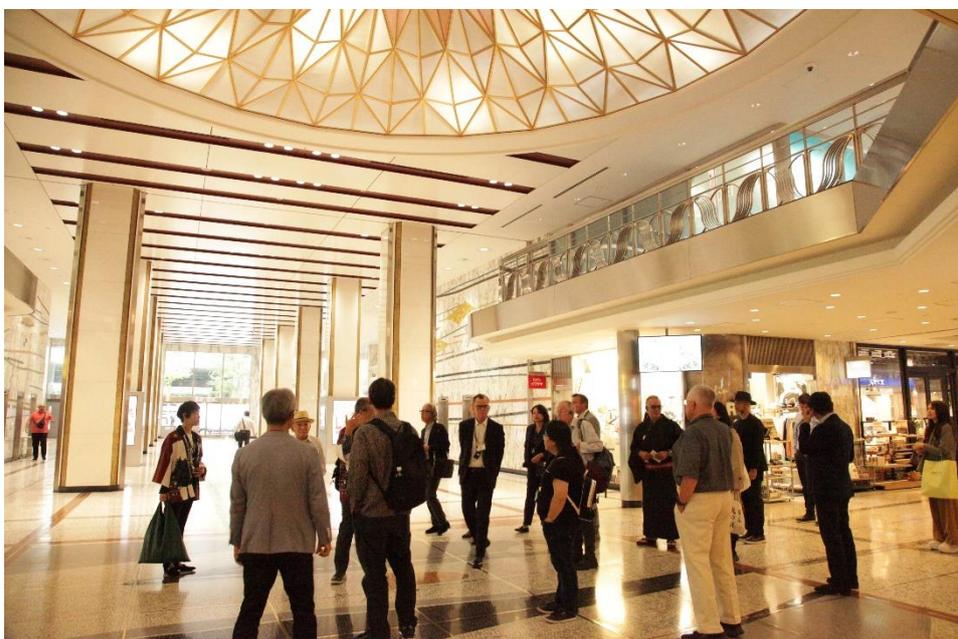
荷物をバスに預けた後、建築に詳しいガイドの誘導に従ってツアーに出かけました。



最初に訪れたのは、古いビルとビルの間隙にできたスリットパーク。最近まで自転車置き場として利用されていたビルの裏側空間が改装され、新たなコミュニケーションの場となっています。アーティストによる装飾がなされ、参加者もこのような空間があったのかとちょっとした驚きを感じていました。



スリットパークから隣のビルに移動。そこは、高度成長期、昭和の時代に建てられた新東京ビル。1階を十字に貫通する通路の床面や壁面にはぜいたくに大理石が貼られ、アートで彩られるなどレトロながら建築的にも貴重な空間であることが紹介されました。



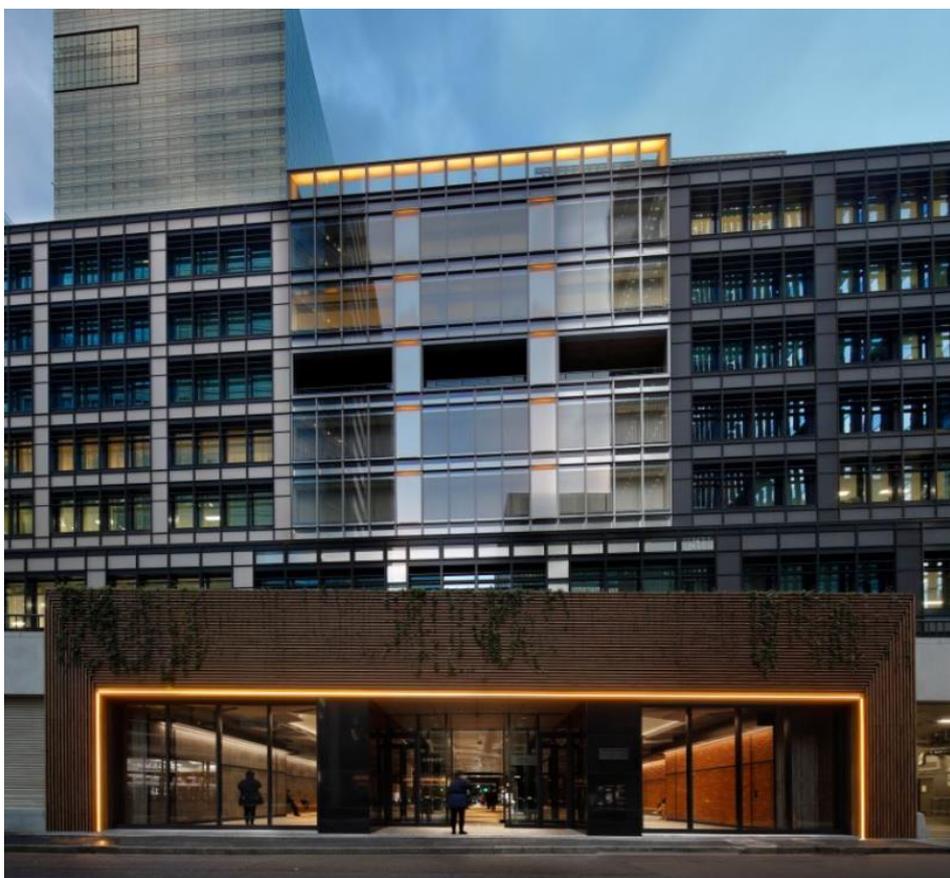
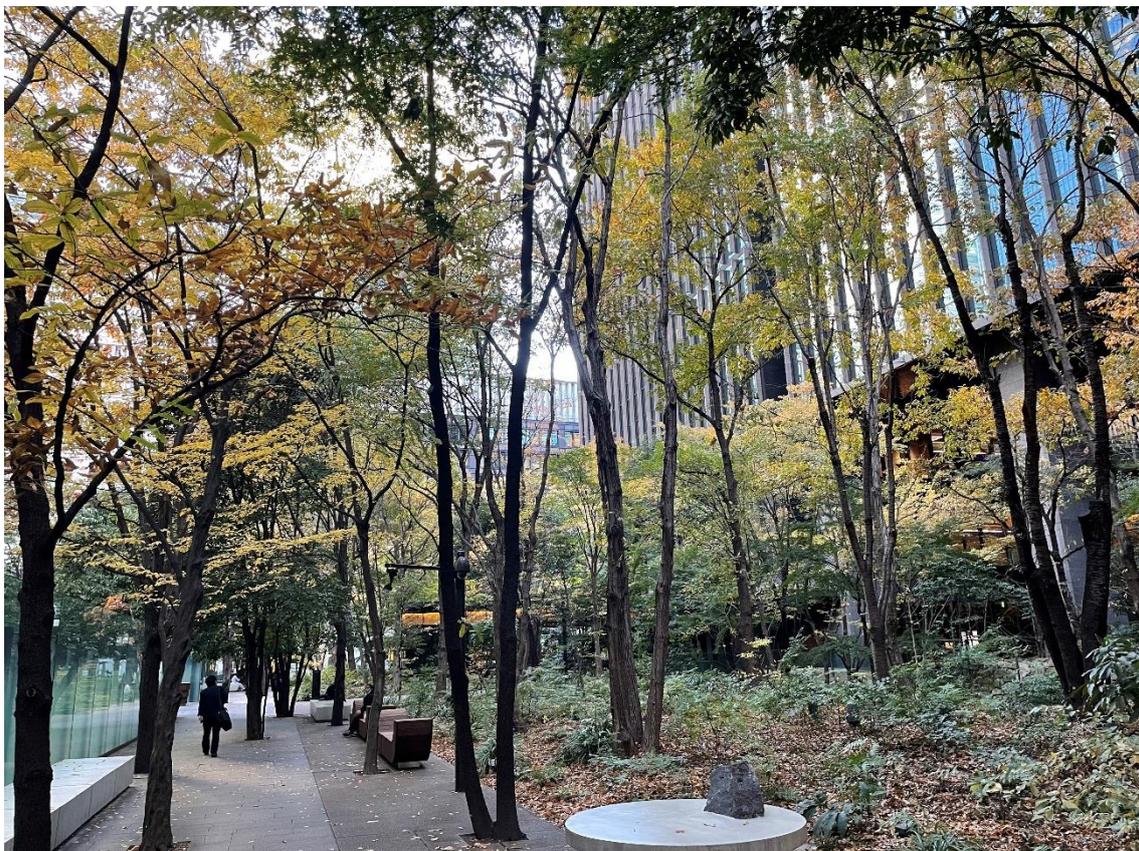
一行は仲通りを北上し、行幸通りで東京駅の改修についての説明を受けた後、新丸ビルの7階、丸の内ハウスのテラスへ。



ここは 2012 年に改修工事が完成した東京駅の駅舎の全貌が見渡せる絶景ポイント。
皆さん、思い思いの方角にカメラを向けていました。



新丸ビルから地上に降りた一行は仲通りを更に北上。ビジネス街に突如現れる“森”、「大手森」の説明を受け、大手町ビルへ。

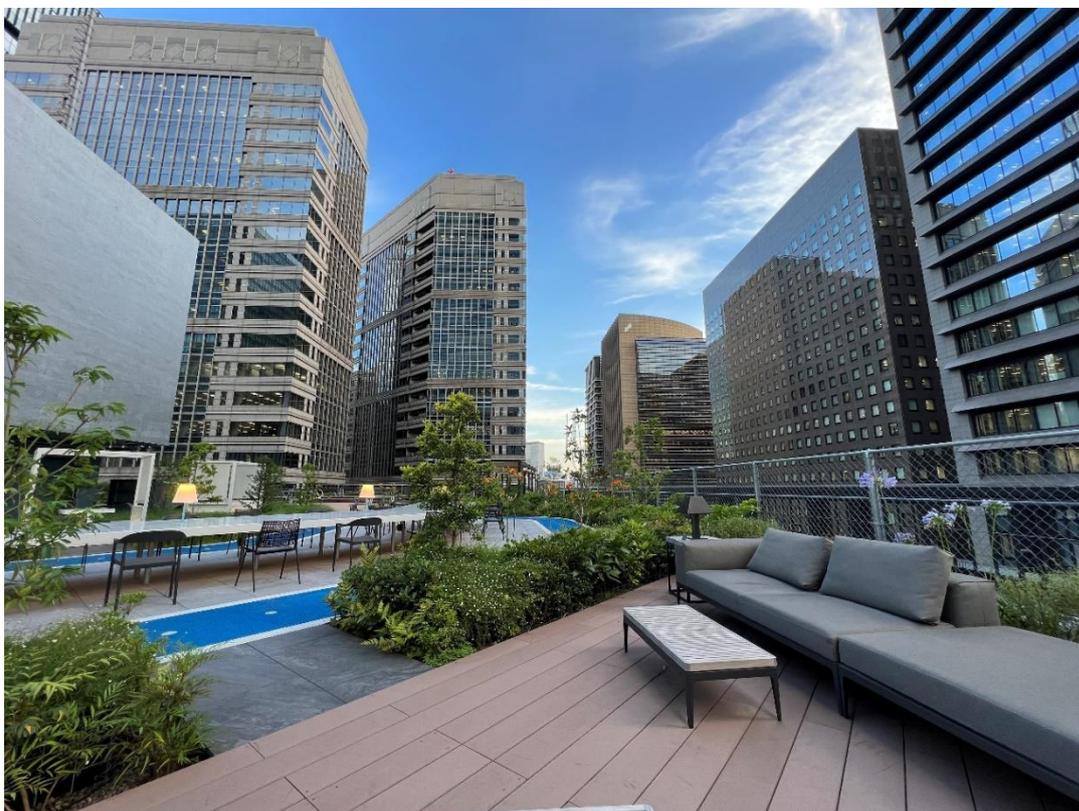


このビルは小区画に小割できる特性を生かして、スタートアップ企業向けオフィスや各種インキュベーション施設などが設けられ、大規模な改修が行われたビルです。

4階の Fino Lab、6階の Inspired Lab について、運営を担当するご担当の方から直接説明を受け見学しました。



そして、丸の内街歩きの最後は大手町ビルの屋上にできた Sky Lab。同ビル並びに周辺ワーカーのための広場で青空のもと、休憩したり、会議をしたり、仕事をしたり。気持ち良いスペースです。東側角にはワーカー参加型の菜園があり、そこで採れたレモングラスやローズマリー等をブレンドしたオリジナルのフレッシュなハーブティを頂きました。





一行はこの後、バスで東京駅に向かい、12:48 発の新幹線で大阪に向かいました。



新幹線の社内では乗車前にピックアップされた東京ステーションホテルのランチボックス。地産地消を意識した東京の素材を中心に作られたお弁当は皆さんに大変気に入って頂けたようです。



15:15、新大阪駅に無事到着。DMO 大阪梅田のスタッフが出迎え、早速バスに移動。



宿泊する大阪駅前のヒルトンホテルにチェックインの後、すぐにバスでグランフロント大阪の中層階にある「うめきた2期」の開発のプレゼンテーションルームに移動。



シアタールームで映像により「うめきた2期」開発の概要を理解した後、模型室へ。部屋の窓から、眼下に正に工事が進む壮大な「うめきた2期」の現場を見下ろし、また、模型を前に計画の説明を受けました。大阪駅という中央駅の真ん前に、これほど巨大な緑の公園を配した計画に参加者の皆さんも驚くと同時に、関心も高まり、多くの質問が飛び交いました。





プレゼンルーム見学の後、グランフロント大阪の低層階に移動。ここにはショップやレストランに加え、イノベーション拠点としてのLAB（ラボ）機能が集積しており、産官学が参画し、新しい技術やアイデアが体験できる「ナレッジラボ」を訪問。ご担当者の方より、説明を受けました。



この日はちょうど大阪フードラボのスペインフェアのレセプションが近くであり、そこで軽い食事を済ませ終了となりました。

(2日目)

翌日、朝 10 時にホテルのロビーに集合。近年の開発で整備された大阪駅南側エリアの地下街を通り抜け、曾根崎心で有名なお初天神にお参りし、その後、昭和レトロな街並みが残る地域を散策。最先端の開発が進むエリアのすぐ横に昔ながらの大阪らしい活気ある商店街を見て、その対比を楽しみました。



一行は 2021 年にオープンしたオフィスと百貨店の複合ビル「ツインタワーサウス」に移動。オフィスフロアに案内していただき、「梅田」の名称の由来から、ここ 10 年の大阪駅周辺の開発と移り変わりにつき説明を受けました。



一行はエレベーターで 12 階にあるテナントワーカー専用の共用フロア WELLCO に移動。ゆったりと贅沢なりビング空間にナッピング（お昼寝）ルームやジムスペースなど、今の時代に

求められる「入社したくなるオフィス」の仕掛けに納得していました。





お昼は同ビル9階にあり、大阪の名店が並ぶフードコート「阪神大食堂」の特別室でランチ。大阪名物のお好み焼きをはじめとする数種類のメニューの中から、各人それぞれが選び、ランチを楽しみました。



ランチの後はこのツアー最後のプログラム。梅田地区に隣接し、昭和の時代の街並みが残りながら、最近若者によるおしゃれなカフェや雑貨店などが出現し、人気エリアとなっている中崎町をご案内。途中、カフェでコーヒーをテイクアウトしたりしながら街歩きを楽しみました。



最後は大阪駅の足元に立地する「新梅田食堂街」入り口に集合。午後3時過ぎに終了、解散となりました。

少し、行程がタイトで各所の魅力を伝えきれない部分もありましたが、モニターの皆さんには日本の東西を代表する東京丸の内と大阪梅田の街づくりに関し、その歴史、現在、未来を学び、日本の街づくりのこれからを感じ取っていただく2日間となりました。